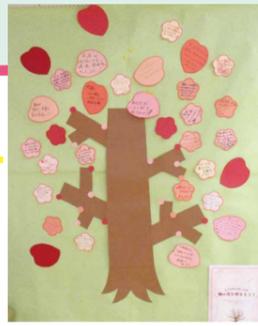


分科会

第3分科会 親を頼りにくい 若者たちの「声」に出逢って

一人ひとりの想いを 梅の樹にしたためました



玉井慎太郎さん 認定NPO法人 DxP職員 13~25歳のための進路、就職、生活にまつわるLINE相談「ユキサキチャット」事業のマネジャーを担当。本事業内では親に頼れず生活が苦しい若者への現金給付・食糧支援プロジェクトも実施。

はやしさん(大学3年生) 市外の児童養護施設での生活を経験のち、市内の大学に通っている。 にしじまさん(大学3年生) 児童福祉に関心をもち、京都市ユースサービス協会にて通年のインターンシップ生として社会的養護自立支援事業に携わっている。

ユースサービス協会独自の現金給付・貸付事業や、困った時にその都度立ち寄れる場としての「おりおりのいえ」の背景と利用状況の報告後、ゲストの玉井さんから、親を頼れず生活が苦しい若者への現金給付・食糧支援事業、LINE相談「ユキサキチャット」のお話をお聞きました。当事者や若者からは「親に頼れない若者の方が多いと思う。だけど頼る相手や方法がわからない。大人は相談されるのを待つより、「話聞かよ。どうしたん?」って聞いて欲しい。」などの声をきくことができました。その後のトークセッションでは、「親以外の受け入れ先が必要」「大人も遠慮せず声をかけることも大事」などの意見交換をし、参加者一人ひとりが若者の声とどう出会い、かかわっていくかを考えるきっかけになりました。

Closing クロージング

クロージングでは、各分科会での様子を共有する時間を取りました。第1分科会では「青少年活動センターを自習や活動、居場所に使う若者から『この場がもっと多く、身近な地域にあるとよい』等の話があった」、第2分科会では「多様なセクターの人のつながりで、各地域や学校にもユースセンターが広がっていく」、第3分科会では「もっと若者の声が届くようになればいいな」等の感想があった」と報告がありました。

そして講評として高山参事官補佐から「私も含めてかつて若者だった方々が、どうやって周りにいる子ども・若者に寄り添っていいのか、どうやって理解を得ていくのか、国としてしっかり取り組んでいきたい」とのお話をいただきました。

閉会の主催者挨拶では、「7センターでの取組が、様々な連携で各地域へ広がっていく、親を頼りにくい若者の支援も行い、若者まんなかの京都のまちにしましょう」と締めくくりました。



ユースシンポジウム 2024 「声を、つむぐ。」



交流会

参加いただいた皆さんの声・関係性を更につむぐ場として、交流会を開きました。 皆さんリラックスした表情で、笑顔あふれる場となりました。

会場の声

- 若者に対してどのような取組が行われているかを知ることができた
若者とワーカーのセッション、対話が面白かった
子ども家庭庁のことや当事者の話を幅広く聞いてよかった
子どもまんなかに多世代が関わり合える社会がいいと思った
新たな居場所づくりについて学ぶことができた
ユースセンターのような場所がもっとあればいいな
今後のコラボレーションの可能性を感じた



※写真協力: 有限責任事業組合まことしごと総合研究所



公益財団法人 京都市ユースサービス協会 〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下角御射山町262 京都市中央青少年活動センター内 TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231 Email: office@ys-kyoto.org HP: http://ys-kyoto.org/blog/youthsymposium2024/



この印刷物が不要になれば「雑がみ」としてリサイクルへ!

声を、つむぐ。



開催概要

京都市内にある7つの青少年活動センターを運営する(公財)京都市ユースサービス協会は、年に一度、青少年に関わるテーマを設けてシンポジウムを開催し、社会に向けて発信しています。

今年度は、こども家庭庁の設立にあわせて、「若者の声」をテーマに若者や若者に関わる関係者のリアルな声を発信するとともに、若者の声から生まれた事業、声を聴く事業、特に社会的に訴求力の高い事業について報告。来場者と共に考える機会を設け、新たな価値を生み出す場を作りました。

主催 京都市・(公財)京都市ユースサービス協会

日時

2024年 2月3日(土) 13:00~17:00

会場

ウィングス京都 イベントホール(全体会、クロージング) 京都市中央青少年活動センター 会議室等(分科会、交流会)

スケジュール

- 13:00~14:00 全体会(講演&トークセッション)
14:10~15:40 分科会(3テーマ)
16:00~17:00 クロージング
17:00~17:30 交流会(※希望者のみ)

Opening オープニング

事前企画として...「若者のリアルな声」の数々を、市内7か所の青少年活動センターと新京極商店街「ろっくんプラザ」で撮影。シンポジウムのオープニングで上映しました。

学校の課題多くてバクしそーう!



義務教育なのに、通学費用要る人、要らない人がいるの...なんで?

コロナで通学してないのに、大学施設使用料とられるのなんで?

大学の奨学金、制限なく平等に無償化されればいいのに。



好きなテーマを選んで発言!

仕事辞めたいけど、やりたい仕事もない。この気持ちわかる人いませんか?



年末調整のやり方を義務教育で教えてもらえない...なんで?

テーマ 『私の〇〇宣言!』『社会に対してなげなげ?』『聞いて!ココダケの話』



山科にスケボーパークがないのはなぜ?

消費税が高くなって、ワンコインで漫画が買えない...なんで?



協力: 新京極商店街振興組合

# 全体会

## 開会あいさつ

(公財)京都市ユースサービス協会  
**安保 千秋** 理事長

若者の権利、こども家庭庁への期待、ユースサービスの意義についてお話ししました。



## 講演



こども家庭庁長官官房参事官  
 (総合政策担当)付参事官補佐  
**高山 健太**さん

こども家庭庁の働きや、若者の声をどのように政策へ反映されているのか等についてお話いただきました。

こども家庭庁では18歳や20歳という年齢で必要なサポートが途切れないよう、心と体の発達の過程にある者を「こども」と定義されているそうです。

こども一人ひとりの意見を聴くと言っても、「意見は簡単に聴けるものではない」と語られていました。こども家庭庁では、聴きたいことについて事前に情報を提供し、オンラインやSNS、アンケートや投票など、様々な参加方法を設け、意見を発しやすい環境をつくっていらっしゃいました。最後に、「多くの大人に「こどもの声を聴く」という意識を持っていただきたい」とお話されていました。

## トークセッション

ユースサービス協会と関わりのある青少年2名と、ユースワーカー3名によるトークセッションでは、ワーカーとの出会いや自身の活動・作品にどのような想いを込めたのか、ワーカーとして若者と関わる際に何を大切にしているかなど、それぞれの立場や経験を元にお話いただきました。活動の幅を広げたい、デザインに込めた想い…若者たちには様々な“声”があり、その“声”をどのように拾い、形にしたのか、具体的にイメージしていただくきっかけになりました。



鐘ヶ江ユースワーカー  
 (下京青少年活動センター)

「人とのつながりや縁を大事にしていたり君。新たな機会を提供することで、活動の輪が広がればと考えました。」



とりいさん(大学生)

下京区を中心に、ものづくりの楽しさを伝えるワークショップを開催。「鐘ヶ江さんに出会って、中高生対象の革を使ったワークショップをしたことで、いろんな人に楽しんでもらえるデザインを考える機会になった!」



古田ユースワーカー  
 (子ども・若者総合相談窓口)

「言葉の裏にある気持ちや、説明できない、声になっていないことがあることを前提に、一緒に言葉にすることを大切にしています。」



ささきさん(高校生)

「若者による若者の居場所づくりとキッチンカー」のシンボルマークを制作。「自分が描いたので大丈夫?と不安だったが、大きなタペストリーになってすごく嬉しかった!」



大下ユースワーカー  
 (中央青少年活動センター)

「青少年活動センターは、若者のいろんな機会を紡ぐところ。センターの機能をどんどん市内に広げていきたいと思っています」



# 分科会

## 第1分科会 若者が声を紡いでいける場・機会・関係性

冒頭に青少年活動センターを利用する若者3名より、自習場所としての利用から交流プログラムなどにつながったり、活動するなかで居場所感を持つようになったりした経過や、「このような場がもっと身近になれば」という思いを聴きました。

それらをもとに、若者が声を紡いでいけるにはどのような要素があると良いか、グループで出しました。「無料」「土日・夜に開いている」「何をしても・しなくてもいい」場。「チャレンジ/失敗できる」「役割を選べる」「意見が取り入れられる」機会。「話しやすい/聴いてくれる」「評価されない」関係性。一部両面的な要素もあり双方を包含すること、各要素を組み合わせることなど、要素をどう扱うかまで話されるグループもありました。



なみさん  
 南青少年活動センターを利用する高校3年生。自習利用を中心に、テニスやワカモノ食堂、みなみーとの利用・参加をしている。



みよしさん  
 高校3年生。なみさんとともに南青少年活動センターをよく利用している。センターに通う理由の一つに、気軽に話せるワーカーの存在がある。



こうのさん  
 「ユースカウンスル京都」の活動を通して中央青少年活動センターを利用する大学生。活動とともに青少年活動センターやワーカーとのかわりを含め居場所と感じている。

## 第2分科会 ユースセンターが当たり前前の京都を目指して



ユースサービス協会が実施している、青少年活動センターのないエリアへのセンター機能の持ち出し「アウトリーチ」の多様な活動をゲストとともに伝え、参加者の方と出会い、新しいつながりをつくるねらいで実施しました。

全体でのトークセッションでは、学校連携・地域でのユースセンター拠点・休眠預金活用事業の枠組みで、ご協力いただいているゲストの方から、地域で若者のための場を作るためにはどういった思いや動きが必要かをお話いただき、拠点は違っても共通する部分があることを知ることができました。

それぞれのブースに移った後は、地域を越えた出会いや語らいが生まれている様子が見え、「ユースセンターが当たり前前の京都へ」の一步が見えた時間となりました。



【学校連携】  
 京都市立京都  
 奏和高等学校  
 井上 翔一先生



【地域での  
 ユースセンター拠点】  
 向島ユースセンター  
 (株)健幸プラス  
 大濱育恵さん



【地域での  
 ユースセンター拠点】  
 寺田ユースワーカー  
 (ユースサービス協会)



【休眠預金活用事業】  
 まちとしごと  
 総合研究所  
 三木 俊和さん



【ファシリテーター】  
 まちとしごと  
 総合研究所  
 岡本 卓也さん



※他に 大下・鐘ヶ江ユースワーカーも発表